



食と栄養研究所の設立

研究所設立準備委員長 山澤正勝

一昨年夏の戦略会議において、理事長・学長より「食と栄養の殿堂」構想が発表されました。その後、研究所設立準備委員会が発足し、設立準備委員の皆さんと議論をすすめながら少しずつ骨組を積み上げ、ようやく平成25年4月には発足する運びになりました。以下その取り組みの概要をお知らせし、研究所への理解を深めていただきたいと思います。

研究所設立の目的は、滝川学園、名栄学園の限られた教育資産をグループ全体で効率的に管理することにより、教育・研究の選択と集中を図り、「文理の新しい特徴の形成」と「社会で役立つ高度の知識と技術をもった管理栄養士を育成」するため、本学の教育・研究レベルを向上させ、特徴ある食、栄養、健康に関する研究を推進することです。

この目的を具現化するために、まず、規模の小さな本学の地理的、組織的、研究の特徴を明らかにし、その特徴を生かした重点分野を検討することから議論を始めました。

「食と栄養の殿堂」構想の最終到達点は、社会で役立つ高度の知識と技術をもった管理栄養士を育成することです。具体的に、社会が求めている人材について、病院、老健、委託会社、食品会社を調査した結果、それぞれの分野でより専門性の高い知識と長期のインターンシップ制度などを導入し、社会ですぐに役立つ技術を身につけたスペシャリストが求められていました。

将来、大学院等においてこれら人材の養成を実現するためには、現在の教員の教育・研究両面におけるレベルアップと施設設備の体制作りが急務であり、その第一歩として、研究所の設立に伴い教員間の研究協力と基本的な研究環境整備を行うことが重要と考えました。

最終的に、取り組むべき研究分野は、食科学、臨床栄養、健康科学、学際領域の4グループ（仮）に、また、当面取り組むべき研究課題としては、地域に根ざした大学として、地域住民の食、栄養、健康に寄与できるよう、1）地域社会と連携した臨床栄養、栄養疫学、食育、食品開発、フードビジネスなどに関する事、また、益々進行する高齢化社会を見据え、2）高齢者の食・栄養・健康に関する事、としました。

現在、研究所設立に向けて、教育・研究環境および施設整備に取り組んでおります。周知のように、本学には直ちにすべてを整備するだけの余裕は有りません。毎年少しずつの支援体制になりますが、研究体制を確立し、研究業績を上げていくこと、そして、次のステップである大学院構想の実現につなげていくことを期待しております。

まっこと小さきこの大学が、坂の上に輝く一朶の雲のごとき「食と栄養の殿堂」を目指しております。この志に応えるためには、私たち教職員もより高き教育・研究目標に向かって取り組んでいく必要があります。

(研究所設立準備委員会委員長:山澤正勝, 委員:景山 節, 日比野久美子, 中村麻理, 宮澤洋子, 後藤千穂, 事務局: 林企画課長)